

定例教育委員会会議録

(令和8年1月9日開催)

岡谷市教育委員会

定例教育委員会【議事録】（要点筆記）

日 時 令和8年1月9日（金）15時00分～

場 所 市役所2階 202会議室

署名委員 林教育委員、太田教育長職務代理者

【次 第】

○ 開 会

○ 教育長報告

○ 議 題

1. 中学校の制服、カバンのアンケート結果について【資料No.1】 (教育総務課)

○ 報 告

1. 福井大学大学院等教職開発研究科との連携協定について【資料No.2】 (教育総務課)
2. 岡谷市指定文化財の諮問について【資料No.3】 (生涯学習課)
3. 年度末・新年度の行事について【資料No.4】 (教育総務課)

○ そ の 他

- ・行事等について（各課）
- ・その他

出席委員

教育長 宮坂 享、教育長職務代理者 太田 博久、教育委員 藤森 一俊、
教育委員 小平 陽子、教育委員 林 慎太郎、教育委員 轟 美緒

事務局（説明員）

教育部長 白上 淳、教育担当参事 両角 秀孝、教育総務課長 荻原 浩樹、
教育総務課主幹指導主事 村松 晋
生涯学習課長 三澤 達也、スポーツ振興課長 味澤 勝一、
指導主事(ウェルビーイング実践校) 井出 誠一、
教育総務課 教育企画主幹 西山 塁、学校教育主幹 新村 尚志、
美術考古館 文化財主幹 秋山 仁志、教育総務課 主事 渡辺 凱

<会議録>

○開 会

宮坂教育長

1月定例教育委員会を始めます。本日の署名委員は、林教育委員、太田教育長職務代理者にお願いします。

○教育長報告

宮坂教育長

すでに松の内はあけているが、本年もよろしくお願ひしたい。1月5日の小寒から20日の大寒までが寒の内で、今朝はマイナス8～9度まで冷え込んだ。諏訪湖も薄い氷が一面に張ってきて、いよいよ諏訪の寒さを感じている。

(1) 子どもたちの姿から

① 3学期始業式

12日間の年末年始休業が終わり、1月7日に11校で3学期の始業式が行われた。休み中に大きな怪我や交通事故の報告もなく、いいスタートが切れたと感じている。私は神明小の始業式にお邪魔したが、校歌を作曲した竹内邦光さんが埼玉から来校され、88歳とは思えないほど元気で、子どもたちの前で話され、自分の作った校歌を子どもたちの歌声で聞くことができ、とても満足と話されていた。

② 中学生の活動について

昨年12月13日に「諏訪人権の集い」が行われ、小井川小の人権の花の取り組みや、岡谷東部中3年生と北部中の人権作文の発表があった。さらに12月14日には市内の中学生8名が参加した英語スピーチコンテストが開かれ、年々レベルが上がっており嬉しく感じている。

③ 川岸小学校ありがとう会

10月23日に、新聞報道された「川岸小学校ありがとう会」が開催され、思い出の校舎に感謝しようという児童会の企画で、校内でのかくれんぼや川岸小の思い出クイズが行われ、体育館や廊下の壁に感謝のメッセージや絵を描く様子を見て、とても良い取り組みだと感じた。

④ 長地小学校版画カレンダー

12月24日に、長地小から版画カレンダーを寄贈していただいた。今、教育委員さんのお手元にもあると思うが、岡谷の版画文化をこれからも大事にしてもらえたらと感じている。

(2) 先生方の様子から

12月に職員研修や教頭研修があり、それぞれ日帰りで様々な施設を回って研修が行われた。岡谷では子どもだけでなく職員の研修も大事にしており、今後もこうした機会を大切にしていきたい。

(3) 生涯学習課から

岡谷市美術考古館では、1月10日から4月26日まで「艸（そう）展の作家たち」が開催される。岡谷市を拠点に活動する長年のキャリアを持つ画家10名の作品を展示し、作家の背景や影響を受けた作家・美術潮流なども紹介される。さらに1月25日から2月22日まで、第33回市内小学校児童版画展も開かれ、市内7小学校から選ばれた児童作品が展示されるので、「艸展」とあわせて楽しんでもらいたい。

(4) スポーツ振興課から

① 元日マラソン

令和8年元日、第47回岡谷市民元旦マラソンが開催された。当日は寒さの厳しい中、晴天に恵まれ、子どもから大人まで約200人が参加した。

宮坂教育長

市長の号砲のもと、白い息を弾ませながら各自のペースで湖畔を駆け抜け、新たな決意を胸に清々しい新年のスタートを切る機会となった。

② VC長野トライデンツのオフィシャルトレーニングスタジオ

VC長野トライデンツのオフィシャルトレーニングスタジオが、市民水泳プール棟2階に開設された。市との相互連携協定に基づき施設使用が許可され、今後の練習拠点として活用されるとともに、本市との連携強化が期待される。教育委員会としても、チームの活躍を応援していく。

③ミラノ・コルティナオリンピック、パラリンピック

ミラノ・コルティナオリンピック、パラリンピックの日本代表に、本市ゆかりの選手が選出された。オリンピックのスピードスケートには、中学・高校時代にはやまびこ国際スケートセンターで練習をしていた岡谷市出身で岡谷南高校卒の倉坪克拓選手が初出場を決め、パラリンピック・パラアルペンスキー立位には小池岳太選手が6大会連続で出場する。さらに諏訪地域からも野明花菜選手と山田梨央選手がスピードスケート日本代表に選ばれ、代表選手の活躍が期待されている。

○議 題

1. 中学校の制服、カバンのアンケート結果について

＜中学校の制服、カバンのアンケート結果について、事務局より No.1 に基づき説明＞

太田教育長 職務代理者

今回のアンケートの意図は、定期的に行われているものなのか、それとも学校側で何らかの課題意識を持ち、改善や方向性の検討のために実施したものなのか確認したい。

事務局（村松）

中学校の制服が50年ほど前からほとんど変わっていない。その中で川岸学園の動きもあり、校長会の中で「良い機会のため、今まで変えてこなかったところにも手を入れよう」という話が出て、今回のアンケート実施につながった。

事務局（両角）

今の話の通り、川岸学園が義務教育学校として新しい環境になるので、新しい学校の制服について、部会でこれまで検討を進めてきた。それに加えて、従来ほとんど変わらなかった制服のあり方も見直す必要があるという問題意識から、校長会として川岸学園以外の中学校でも検討しようという流れになり、今年度アンケートを使って全校で実施することになった。

藤森教育委員

市内中学校の制服は、私の時代から変わっておらず、先輩方の写真を見てもほとんど変わっていない。平成20年ごろ、私が市PTAの役員だったときにも「中学校の制服はそろそろ見直すべきではないか」という議論があったが、意見の集約が難しく、結局打ち切りになったことを記憶している。今回、川岸学園がきっかけとなり、デザイン性や価格などの課題も含めて制服の見直しを行うのは、非常によいことだと感じている。

小平教育委員
事務局（村松）
小平教育委員

このアンケートは毎年なのか何年ごとに実施しているのかを確認したい。今年が初めてである。

気候や子どもの成長、教科書の量の変化などもあり、素材や製品の品質も向上しているため、快適さを重視して制服を見直すことは重要である。また、個性を出したい生徒は制服をカスタマイズしてしまうことがあるが、制服の利点である一体感を保つことも大切である。さらに、服装は思春期の子どもたちにとって自己表現やアイデンティティにも関わるので、機能性だけでなく、子どもたちがどんなスタイルで学校に通うかを考える

- 小平教育委員 ことも重要である。その中で、標準服というのはどういったものなのか伺いたい。
- 事務局（村松） 下がスラックス、上が服装自由という形が標準服になる。
- 事務局（新村） 資料No. 1-①に基づき、下は学生ズボン、女性はスカートまたはスラックスを指定のお店で購入することを共通とし、上は、夏季はシャツやブラウス、ポロシャツも可能、冬はYシャツ、ブラウスの上にカーディガンやジャケットという取り扱いである。標準服の形をとっている上諏訪中の先生によると、年々話し合いながらこの形がちょうど良いという結論に至ったため、今後、標準服の設定で参考になると考える。
- 小平教育委員 保護者の立場からすると、洗濯のしやすさや乾きやすさ、価格の面も非常に重要で、以前の学ランの高さに驚いた覚えがある。そうしたことも含めて、標準服という考え方も良いのではないかと感じている。また、岡谷の子どもたちがどんな姿で学校に通うか、未来を感じられるような制服になればよいと考える。
- 轟教育委員 アンケートの結果を見ると、小学生高学年と中学生を合わせたデータでは、6割程度が「制服があった方がよい」と回答している。制服は着るものを選ばなくて済む利便性が大きく、一体感や安心感を提供するものである。また、服装は思春期の子どもたちにとって自己表現やアイデンティティに関わる重要な要素である。したがって、制服のベースは統一しつつ、色や小物などで個性を出せる自由度を持たせることが望ましいと感じている。
- さらに、素材や機能面も重視すべきである。ズボンやカバンのサイズ・容量、素材の改良、快適性の向上などを図ることが必要であり、少子化により学校ごとに個別対応すると単価が高くなるため、統一デザインで量産することはコスト面でも合理的である。刺繍などの後付けにしてリユースできる仕組みも有効である。
- 制服は基本的に継続しつつ、快適で機能的、かつ一定の自由度があり、子どもたちが「着てみたい」「かっこいい」と思えるものに改善していくことが望ましいと考える。
- 林教育委員 制服を変更する場合は簡単には進まないと感じており、4 中学合同で統一する場合でも、PTAや保護者の理解を得ること、デザインや価格の調整、数量や納期の検討など、多くのステップが必要となる。そのため、来年からすぐ変更できるというわけではなく、段階的に検討・調整していく必要があると思うが、どのような流れになるのか伺いたい。
- 事務局（村松） 今回の話は、制服の見直しを考えるきっかけであり、今後、具体的にどのように進めるかは課題となってくる。岡谷北部中学校では2学期に「私服ウィーク」という生徒会の取り組みが行われ、制服のあり方を考えるとともに、生徒一人ひとりの個性や多様性を尊重し、校風を育てる試みがなされている。生徒自身がどの服を着るかを考え、ふさわしい服装の習慣を作る活動である。購入は保護者が行うため、保護者の意見も踏まえつつ、今後の進め方を検討していく。
- 事務局（両角） 各中学校の制服やカバンは、基本的に学校が選定しているものである。今回議題として取り上げられているが、各学校の自主性・選択により適切なものが決められてきた経緯がある。行政は関与する場合もあるが、保護者や子どもたちのアンケート結果を確認した上で、今後どうするかを検討していくことが重要である。

事務局（両角） また、全4中学校で統一する必要があるかについては、それぞれの学校の自主性に委ねられる。現在も女子のタイの色などで学校が分かるようにしている例もあり、統一する方法と異なる方法の両方が選択肢としてあり得る。最終的にどの方法を採用するかは、学校の自主性・独自性のもとで決定されると考えており、今後、校長会において検討が進んでいく。

林教育委員 このアンケート結果は、今後保護者に配布される予定はあるのか。

事務局（村松） すでに各学校から保護者の方へ配付済である。

太田教育長職務代理者 各学校が自主的に最終決定を行うことは理解できた。その上で、義務教育の中での制服であるため、価格面での配慮は必要である。現在もリユースなどの仕組みはあるが、可能であれば価格を抑えつつ、生徒の成長に応じて着用回数を調整できる仕組みを構築することが望ましい。また、デザイン面についても配慮が必要である。この地域では岡谷東高校の制服に誇りを持つ生徒が多く、母校愛に繋がっている例もあるため、今後の制服変更は、そのような象徴的な価値も含めたものになることが望ましいと考える。

宮坂教育長 議題1 中学校の制服、カバンのアンケート結果について、以上といたします。

本アンケートからは、制服やカバンに対して、機能性の向上や多様性の尊重が求められていることが明らかである。一方で、制服は学校生活の規律や生徒の一体感を支える役割を果たしているとの評価も確認できた。今後は、こうした声を踏まえ、制服およびカバンの在り方について慎重に検討を重ねていく。

○ 報 告

1. 福井大学大学院等教職開発研究科との連携協定について

<福井大学大学院等教職開発研究科との連携協定について、事務局より No. 2 に基づき説明>

太田教育長職務代理者 福井大学をはじめとして、これまでさまざまな形で先生方を派遣いただき、研修を通じて大きな学びを得られる大学・大学院であることは承知している。しかし、今回新たに福井大学、岐阜県聖徳学園大学、富山国際大学と連携を結ぶ理由について、なぜこれらの大学であるのかを改めて説明してほしい。また、これまでの指導経験を踏まえ、今回の連携によって具体的にどのような変化や成果が期待されるのかについても説明してほしい。

事務局（両角） 経過を申し上げますと、本件は令和2年頃に始まったものである。当時、福井大学副学長の松木先生と岡谷市の学校が、公開授業研究会や教職員研修会、悉皆研修、さらに福井大学でのラウンドテーブルなどに関わる中で、福井大学が中心となる教職大学院への参加の声がかかった。令和4年頃には、岡谷市の教員も教職大学院に挑戦する機会があり、毎年各校2名程度がスキルアップのために参加してきたという経緯がある。現在、大学3校の連名となっているが、福井大学がベースとなり、物理的距離が問題にならないオンライン研修などの環境も整備されている。本年度末に教職大学院の教授陣から、さらに具体的な形として連携協定を結び、引き続き研修を進めていこうという提案があり、今回の連携協定締結に至ったものである。協定を結ぶことで今まで以上に進めやすくなっていく。

林教育委員 この連携は、他の自治体においても同様の事例があり、岡谷市はその中の1つとして位置づけられるのか。

事務局（両角） 元々、福井大学との連携は福井県内の公立学校とのつながりから始まったもので、その後さまざまな県の自治体とも連携が進み、大学院で教職大学院に挑戦する教員とのつながりも生まれてきた。今回の連携により、大学との繋がりはさらに強くなると考える。

2. 岡谷市指定文化財の諮問について

＜岡谷市指定文化財の諮問について、事務局より No. 3 に基づき説明＞

小平教育委員 岡谷の蚕糸産業の歴史がよく分かる資料は非常に貴重である。地域の人々、特に親世代は野球に誇りを持っており、また工女の方々も教育や文化活動に恵まれていたことがうかがえる。美術考古館で展示される資料について、文化財に指定されたものと指定されないものとで扱いに違いがあるのか。

事務局（秋山） 資料3-①で説明した通り、保存状態が悪いものや購入時期が不明なものについては、証拠がないため文化財指定の対象にはしない。指定するのは、確実に使用されたことが確認できる資料である。資料は幅広く、全2,750点を指定するという方法もあるが、まずは製糸業を支えた昭和4、5年の資料を抽出し、優先的に指定を進める予定である。野球関連資料の指定は全国的にも例がなく、おそらく岡谷市が初めての事例となる可能性が高い。

太田教育長職務代理者 全国大会準優勝や台湾遠征などの実績は、当時のバックアップ体制があつてこそ可能であり、この地域の製糸業に支えられた背景があると考えられる。また、台湾遠征は当時の日本と台湾との関係性も背景に含まれるものであると言える。これらの歴史的・文化的背景を踏まえて指定を行うものであり、岡谷市にとって非常に意義深いことである。

藤森教育委員 今回の資料は非常に貴重であり、かつスポーツに関するものとしては全国的にも珍しい。現状、甲子園歴史館などに貸し出され展示されているが、将来的には岡谷市内、例えば蚕糸博物館や美術考古館のいずれかで展示し、市民が直接閲覧できる環境を整える計画があるか。

事務局（秋山） 現在、資料は甲子園歴史館に貸し出されているが、市の指定文化財となった場合、一度里帰りの形をとる必要があると考えられる。また、甲子園歴史館への貸出期間については交渉が必要である。なお、甲子園歴史館で展示される際には「岡谷市指定文化財」の表示を付すことになり、現地においても岡谷市のPRにつながると考えられる。

3. 年度末・新年度の行事について

＜年度末・新年度の行事について、事務局より No. 4 に基づき説明＞

＜質疑・意見等＞

特になし。

○その他

・行事等について（各課）

＜各課より行事予定について説明＞

藤森教育委員 小中学校の卒業式の日程が分かれば教えてほしい。

事務局（荻原） 小学校が3月17日、中学校が3月18日であり、午前9時からである。

・その他

<市民総合体育館の大規模改修工事について事務局より説明>

・次回定例教育委員会日程

令和8年2月6日（金）午前9時30分から市役所6階605会議室を予定

16時15分 終了

岡谷市教育委員会会議規則第20条により署名する。

令和8年2月6日

教 育 長	宮坂 享
署 名 委 員	森 慎太郎
署 名 委 員	太田 博久
調 製 職 員	白上 淳